

「脳脊髄液減少症」について

スポーツ外傷や交通事故など、身体への衝撃によって、脳を守っている「脳脊髄液」が漏れ出し減少する病気です。このことによって、大脳や小脳がそれとともに下がってしまい、起立性頭痛（立っていると増強する頭痛）や頸部痛、めまい、倦怠感、不眠、吐き気、記憶障害などの症状で慢性的に苦しめられる病気です。

ボールが頭に当たった。選手同士が激突した。転んで頭や腰を強く打った。などの事故があった場合、その後に頭痛やめまいなどの症状が見られるときは、この病気の可能性があると思います。まだまだ認知されていない病気で、北海道でも専門医はわずかですが、早期の発見で完治することが可能です。

ご相談は、旭川軟式野球連盟まで

070-0039

旭川市9条通り8丁目左4号

T.0166-22-8889

専門医は、東札幌脳神経クリニック 高橋明弘院長

札幌市白石区東札幌3-3-13-1シヴァビル

T.011-817-2271

学校における事故防止と 事故後の適切な対応

学校においては、事故の要因となる学校環境や児童生徒等の学校生活における行動等の危険を早期に発見し、それらの危険を速やかに除去するとともに、事件・事故や災害が発生した場合に、適切な応急手当や安全措置ができるような体制を確立して、児童生徒等の安全の確保を図るようにすることが必要です。

万が一、学校管理下において事件・事故災害が発生した場合には、児童生徒等の安全確保や通報など必要な措置を行うとともに、速やかに適切な応急手当が行われなければなりません。

スポーツ外傷等の事故が発生した後、児童生徒等に頭痛やめまい等の症状が見られる場合には、安静を保ちつつ医療機関で受診をさせたり、保護者に連絡して医療機関の受診を促すなど、適切に対応することが大切であり、道教委としては、平成19年6月8日付け教学健第336号通知を発出し、各道立学校及び市町村教育委員会に周知しています。

事故後の後遺症として通常の学校生活を送ることに支障が生じているにもかかわらず、まわりの人から単に怠慢である等の批判を受け、十分な理解を得られなかったなどの事例があるとの指摘もなされており、「脳脊髄液減少症」と呼ばれる疾患が起こり得るのではないかと報告もなされています。



脳脊髄液減少症とは

近年、スポーツ外傷や交通事故など、体への衝撃によって、脳脊髄液が漏れ出し減少することによって、起立性頭痛（立位によって増強する頭痛）などの頭痛、頸部痛、めまい、倦怠、不眠、記憶障害など様々な症状を呈する「脳脊髄液減少症」とよばれる疾患が起こりうるのではないかと報告が一部の研究者からなされています。

この疾患については、医学的な説明が進められている段階であり、スポーツ外傷等を原因として起きるかどうかも含め、いまだ定まった知見や治療法が確立していませんが、専門家の間で科学的な研究が行われています。

各学校においては、必要に応じて、養護教諭を含む教職員が連携しつつ、個々の児童生徒等の心身の状態に応じ、学習面を含め学校生活の様々な面で適切に配慮してください。

【関係機関等へのリンク】

- ・ 脳脊髄液減少症・子ども支援チーム <http://www.kodomo-cfh-support.net/>
- ・ 脳脊髄液減少症患者支援の会 <http://www.geocities.jp/zuiekichiba/>
- ・ 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会 <http://www.npo-aswp.org/>